

平成27年度版



VEDICA

野菜流通カット協議会

Vegetables Distribution and Cutting Association

野菜ビジネス協議会



青果物カット事業協議会

平成27年5月両協議会が統合し、野菜流通カット協議会が誕生しました。

野菜流通カット協議会について

近年、野菜の需要形態は、家計消費用から加工・業務用へ大きくシフトしています。このような情勢の中で、時代の要請に応えるべく、従来の青果物カット事業協議会と野菜ビジネス協議会の両協議会を統合して、新たに野菜流通カット協議会が設立されました。本協議会は、加工・業務用野菜を中心とする青果物の生産者との共生を図りつつ、その生産の振興及び流通の効率化、安全性及び品質の確保・向上、消費の拡大等を図るため、必要な調査研究、指導、情報活動等に関する事業を行い、青果物の流通・加工事業関連業界の健全な発展に資することを目的として、農林水産省のご指導の下、平成27年(2015)5月、新組織として誕生しました。

統合前の青果物カット事業協議会は、青果物のカット事業の健全な発展に資することを目的に、農林水産省のご指導の下、昭和63年(1988)に設立されました。

一方、野菜ビジネス協議会は、野菜の流通業務に携わる様々な事業者が、国産野菜の産地や流通の問題等を一緒に考え、協力しあい、それぞれの事業者の共栄と日本農業の発展に貢献することを目的として、農林水産省のご指導の下、平成12年(2000)に設立されました。

なお、平成21年度からは、新たに加工・業務用国産野菜等の安定供給を図るための補助事業を、野菜ビジネス協議会が受託し、加工・業務用国産野菜サプライチェーン構築に積極的に関わっています。本協議会では、青果物の需要形態の変化等に対応した我が国における青果物の新たな生産・流通システムのあるべき姿について調査・研究を重ね、得られた成果を農林水産省へ政策提言等を行い、予算等に反映して頂くような活動も引き続き行っていきます。

事務局は一般社団法人日本施設園芸協会内にあります。



木村会長

活動内容について

- 加工・業務用野菜等青果物の生産、流通、加工等に関する調査研究
- 加工・業務用野菜等青果物に関する基準の策定及びその普及指導
- 加工・業務用野菜等青果物に関する情報の収集及び提供
- 加工・業務用野菜等青果物の生産の振興及び流通の効率化等に関する事業の実施
- その他協議会の目的を達成するために必要な事業



会員

会員企業41社

(株)旭物産・(株)伊藤食品・伊藤忠商事(株)[(株)食料マネジメントサポート]・カゴメ(株)・キューピー(株)・倉敷青果荷受組合・(有)グリーンフィールド・(株)ケーアイ・フレッシュアクセス・(株)健食・(株)五條市青ネギ生産組合・こと京都(株)・(株)彩喜・サトウ産業(株)・(株)三晃・サンポー食品(株)・(有)四位農園・(株)JAさが富士町加工食品・(株)誠孝・(株)清浄野菜普及研究所・全国農業協同組合連合会・デリカフーズ(株)・(株)ドール・東京シティ青果(株)・(株)トップ・ラン・富山促成青果(株)・ナラサキ産業(株)・成田食品(株)・日本デルモンテ(株)・(株)浜松ベジタブル・(株)坂東商会・(株)福岡中央青果・富士食品工業(株)・(株)フレックス・フレッシュ・フーズ・(株)mamato・マルアキフーズ(株)・丸紅食料(株)・みかど協和(株)・三井物産アグロビジネス(株)・ミヤジフーズ(株)・(株)ユーキフーズ・横浜丸中青果(株)



賛助会員16社

(株)イシダ・稲畑産業(株)・(株)エムラ販売・(株)コーレンス・小嶺機械(株)・ショウワ洗浄機(株)・住友ベークライト(株)・(株)精工・(株)大生機械・ナカヤ工業(株)・日建リース工業(株)・のむら産業(株)・(株)ベルグリーンワイズ・細田工業(株)・三浦工業(株)・三井化学東セロ(株)



平成27年度 事業計画(案)

1. 研究・情報交換・交流事業

1) 展示会への出展

(独)農畜産業振興機構と野菜流通カット協議会の共催による「加工・業務用野菜産地と実需者との交流会2015」(国産野菜の契約取引マッチング・フェア)の野菜の展示・商談会の場へ野菜流通カット協議会会員から出展者を募り、交流会へ参加を行う。

- ① 平成27年10月22日……北九州市(西日本総合展示場)
- ② 平成28年3月8日……東京(東京流通センター)



2) 研修会の開催

① 海外現地研修会……平成28年1月後半～2月上旬予定

ベトナム(ダラット)の加工・業務用野菜生産現場や日本との合弁企業が運営している日本向け野菜冷凍施設の現状やベトナムイオン等の視察及びタイ(バンコク)では野菜流通の状況等の視察や現地関係者との意見交換を行う。



② 国内現地研修会……平成28年2月予定

群馬県にある会員企業のカット野菜工場が現在新設中のため、完成後の新工場を現地視察研修の予定。

③ 当協議会が事業実施主体の平成27年度 青果物流通システム高度化事業における現地研修会への参加を行う。

- ① キャベツの収穫機実演会・セミナー(1回)
- ② にんじんの収穫機実演会・セミナー(2回)
- ③ 新流通方式に係る産地・実需者等のセミナー(3回)



④ 農林水産省 生産局 園芸作物課との意見交換会の実施。

加工・業務用関連の次年度以降の補助事業への政策要望を踏まえた意見交換を、当協議会会員と園芸作物課との間で実施する。



3) 調査事業

① 平成26年における「カット野菜製造の実態」調査

カット野菜製造の実態を明らかにするため、平成2年から3年に1回の頻度で実施しているアンケート調査の実施。

② 協議会賛助会員の中で、包装における鮮度保持等を取扱っているメーカーの事例集的なものを冊子に纏め、幅広く関係者へ配布予定。

③ 関係省庁・関係団体と連携し、情報収集を行い会員へ適時提供する。
関係行政機関、関係諸団体等からの情報収集。

④ 一般社団法人 日本施設園芸協会主催の「平成28年度 園芸関係政府予算案等説明会」への参加(1月)

4) その他

① 本協議会のホームページの立ち上げを行う。

新組織のホームページを新たに開設し、活動内容・会員紹介・入会案内等について掲載を行い、関係機関・関係者等へ広く発信できる体制を図る。

② 本協議会の会員募集を積極的に展開する。



◆農林水産省の加工・業務用野菜関連補助事業(青果物流通システム高度化事業)の実施

本事業は、加工・業務用野菜の新たな流通方式を普及・啓発するため、産地や実需者に対するセミナー等の地域物流拠点等での開催、新たな流通方式の実証試験、産地側と実需者側のマッチングのための情報・意見交換会の開催、先端貯蔵技術による長期貯蔵の現地での実証試験、加工・業務用野菜の生産コストの低減に不可欠な機械化一貫体系の確立のための産地での実演会の開催等幅広い取組みを推進し、その成果を全国の加工・業務用野菜の産地や実需者に波及することにより、加工・業務用野菜の生産や流通の合理化・効率化を図り、国産の加工・業務用野菜の安定供給、輸入野菜からの国産野菜へシェア奪回に資することとしています。

●平成27年度の事業計画(平成27年6月時点)は、以下のとおりです。

1) モーダルシフト等、新流通方式に係る産地・実需者等のセミナーの実施

- ①北海道内JR貨物ターミナル駅・・・平成27年 8月予定
- ②九州内JR貨物ターミナル駅・・・平成27年 9月予定
- ③東京都内JR貨物ターミナル駅・・・平成27年11月予定



2) 安価で効率的なモーダルシフトの輸送試験の実証を実施(2回程度)

遠隔地⇒関東圏実需者(2箇所下ろし)、遠隔地⇒関西圏実需者(2箇所下ろし)

3) 聞き取り調査およびアンケート調査の実施

- ①物流事業者及び実需者等への流通実態調査の実施
- ②遠隔地の産地において、異業種間連携の取組に係る先進事例調査を実施



4) ALICとの共催の交流会に当協議会傘下会員と共に出席参加及び新産地生産者等の産地側と実需者側との情報交換会を実施(2回開催)

- ①平成27年10月22日・・・北九州市(西日本総合展示場)
- ②平成28年 3月 8日・・・東京(東京流通センター)



5) IT等を活用したマッチングシステムの試験的開設・運用の検討のため、必要な情報の収集等を行う

6) 青果物(キャベツ、レタス、レモン等)の冷蔵・冷凍技術の導入等に必要な現地実証試験を行うと共に、現地検討会を開催

7) 青果物野菜の貯蔵技術導入マニュアルを作成し、広く関係者へ配布して普及推進を図る



8) キャベツ収穫機の実演会(現地検討会)を1地区程度、にんじん収穫機の実演会(現地検討会)を2地区程度で開催

- ①キャベツ・・・宮城県内(平成27年 10月実施予定)
- ②にんじん・・・富山県内(平成27年 11月実施予定)
- ③にんじん・・・福島県内(平成27年 12月実施予定)

9) 加工・業務用キャベツの生産・流通一貫体系マニュアルを作成し、広く関係者へ配布して普及推進を図る



10) 水田転作・裏作を利用した栽培優良取組事例の紹介を冊子に纏め、広く関係者へ配布して普及推進を図る



*掲載されている写真は、事業計画に伴うイメージ写真です。



■「品目別・用途別ガイドライン」(改訂版)のご案内

「品目別・用途別ガイドライン」(8品目:トマト、レタス、ほうれんそう、キャベツ、だいこん、にんじん、ねぎ、たまねぎ)の内容の見直しを行い、新たに1品目:「きゅうり」を加えて、求められる用途別の品質・規格等について、平成23年3月に改訂版(9品目)として取りまとめ、発行しています。



■「加工・業務用野菜標準基本契約取引ガイドライン」の発刊

野菜ビジネス協議会と青果物カット事業協議会では、契約取引における標準的な契約ガイドラインを作成し、需給変動に伴うリスクを売り手及び買い手の双方が理解してその対策を協議していくことが、加工・業務用野菜ビジネスの発展につながるものと考え、両協議会のメンバーの智恵を集めて、「加工・業務用野菜標準基本契約ガイドライン」を平成25年11月発行しました。この「加工・業務用野菜標準基本契約ガイドライン」主な内容としては下記のとおりです。

- ①本ガイドラインの目的
- ②契約に際しての基本的な留意点
- ③契約取引の取引手順
- ④標準的な契約書類様式



■平成26年度「ニュービジネス育成・強化支援事業」報告書の配布

野菜ビジネス協議会は、農林水産省の助成を受けて、中間事業者の経営発展や産地指導者の育成に資するためのセミナー(意見交換会)の開催、産地との連携推進及び販路開拓に向けた支援、国内産地の生産力の強化のためキャベツ等の収穫機の実演会(現地検討会)の実施や加工・業務用野菜の生産・流通一貫体系マニュアルの作成・普及に向けた調査及び経営指標の作成、遠隔産地からの輸送コスト低減のため既にモーダルシフトに取り組んでいる産地等について事例調査を行い、その成果を全国に広め、国産野菜の安定供給及び野菜の自給率の向上に資することを目的に標記の事業を実施しています。

平成26年度の活動内容を「ニュービジネス育成・強化支援事業」報告書に取りまとめ配布しています。



■「加工・業務用キャベツ・レタス栽培技術マニュアル」のご案内

野菜ビジネス協議会では、寒玉キャベツの4~5月どり栽培と大玉レタスの冬どり栽培、また、大幅な省力化・低コスト化をもたらすキャベツ収穫機を取りあげ、栽培実証試験の成果及び試験研究機関の成果をもとに、平成25年2月「加工・業務用キャベツ・レタス栽培技術マニュアル」を取りまとめ、発行しています。



■「加工・業務用キャベツの生産・流通一貫体系のための機械化体系マニュアル」のご案内

野菜ビジネス協議会では、ニュービジネス育成・強化支援事業において現地実証や現地で導入されている農業機械を調査し、「加工・業務用キャベツの生産・流通一貫体系のための機械化体系マニュアル」を平成27年3月に作成しました。本マニュアルでは、段ボールにより市場出荷を行っている2~3ha規模の栽培及び規模拡大により6ha規模の鉄コンによる加工・業務用出荷を行っている愛知県東三河地域の機械化体系と共に、キャベツ収穫機を導入して作付面積を10ha規模に拡大した場合に想定される機械化体系等を紹介しています。



主な内容としては下記のとおりです。

- ①キャベツ栽培の基礎知識、②加工・業務用に適した品質と規格、③機械化作業体系、④経営効果

「野菜流通カット協議会」入会のご案内

国産野菜の振興のために、一緒に取り組みませんか？

平成27年5月に新たに誕生しました野菜流通カット協議会の会員としてご入会頂き、国産野菜生産の振興及び流通の効率化、安全性及び品質の確保・向上、消費の拡大等を図るため、共に活動して参りたいと存じます。

なお、入会に際しては、別紙「野菜流通カット協議会会員入会申込書」に必要事項をご記入の上、協議会事務局(一般社団法人 日本施設園芸協会)まで、FAXもしくは郵送にてお送り下さい。



本会の会費は、
1会員年額 12万円です。

□ お問い合わせについて

野菜流通カット協議会 事務局

【住所】東京都中央区東日本橋 3-6-17 山一ビル4F
一般社団法人 日本施設園芸協会内
【TEL】03-3667-1631 【FAX】03-3667-1632
【受付時間】AM9:00~PM17:00 (*土曜・日曜・祝祭日は休業)



「野菜流通カット協議会」会員入会申込書

平成 年 月 日

野菜流通カット協議会
会長 木村幸雄 殿

申込者 住 所 〒 _____
会員の名称 _____
申込者氏名 _____ (印)

貴協議会の趣旨に賛同し、会員として入会致したく申し込みます。

住 所：〒

会 社 (法人) 名： _____ 社印

代表者 役職・氏名：

担当者 役職・氏名：

電 話： _____

F A X： _____

E-mail： _____

*会社案内・概要等の添付をお願いします。